

シラバス参照

授業科目名	子どもとソーシャルワーク
単位数	2
授業形態	講義
講義コード	5702
授業担当者氏名	岩崎雅美(イワサキ マサミ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	①子どもや若者への支援にかかわるソーシャルワークの基本となる「ケースワークの原則」を説明できる。 ②子どもや若者への支援における相互理解や信頼関係の形成における技術を体得できる。 ③子どもや若者への支援にかかわる多様な事例を検討しながら、専門職としての自己覚知を深めることができる。	
授業概要	現代社会を生きる子どもや若者たちが抱える生活課題に、保育士等の子育て支援の専門職や信頼できる一人の身近な大人や地域住民として、ソーシャルワークの知識・技術・マインドを用いて、具体的場面にどうかかわっていくのかを考えていく。多様な課題を抱える子ども・若者支援に対する援助のあり方について、歴史上の人物のエピソードや映画や小説、物語などの一場面を例に、ケースワークの原則の適用を試みて「自分だったら、どうするか」と出来るだけ自己に引き付けた問いを投げかけていく。説明動画を視聴し、配布資料を参考に個人ワークでレスポンスの質問に対する自分なりの回答を選択し、他の受講生の回答と比較しながら、理論と実践の両面から理解を深めていってもらいたい。	
科目ナンバリング	1-KKO-5-N02-3-2	
科目ナンバリングについて	科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。 1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。	
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html	
授業の特徴	特徴	該当
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型(PBL)連携なし	-
	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○
	D: グループワーク	○
	E: プレゼンテーション	-
	F: 実習、フィールドワーク	-
	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	-
	H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○
	I: 反転授業	-
	J: 外国語のみで行われる授業	-
	K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業	
実施形態	対面授業科目	
実施形態について	※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目 : 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目 : 上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。	
授業計画	第1回	ネット依存について【対面授業】(担当: 岩崎)

	第2回	ケースワークの原則 ①個別化【対面授業】(担当: 岩崎)
	第3回	ケースワークの原則 ②感情の意図的表出【対面授業】(担当: 岩崎)
	第4回	ケースワークの原則 ③統制された情緒的関与【対面授業】(担当: 岩崎)
	第5回	ケースワークの原則 ④受容【対面授業】(担当: 岩崎)
	第6回	ケースワークの原則 ⑤非審判的態度【対面授業】(担当: 岩崎)
	第7回	ケースワークの原則 ⑥自己決定【対面授業】(担当: 岩崎)
	第8回	ケースワークの原則 ⑦秘密保持【メディア授業(オンデマンド)】くり返し学修ができるようメディア授業で実施(担当: 岩崎)
	第9回	スクールソーシャルワーク【メディア授業(オンデマンド)】くり返し学修ができるようメディア授業で実施(担当: 岩崎)
	第10回	不登校・引きこもりの支援 ①初回面接の留意点【メディア授業(オンデマンド)】くり返し学修ができるようメディア授業で実施(担当: 岩崎)
	第11回	不登校・引きこもりの支援 ②事例で考える【メディア授業(オンデマンド)】くり返し学修ができるようメディア授業で実施(担当: 岩崎)
	第12回	ヤングケアラーについて【メディア授業(オンデマンド)】くり返し学修ができるようメディア授業で実施(担当: 岩崎)
	第13回	利他と傷つきについて【メディア授業(オンデマンド)】くり返し学修ができるようメディア授業で実施(担当: 岩崎)
	第14回	貧困と格差について【メディア授業(オンデマンド)】くり返し学修ができるようメディア授業で実施(担当: 岩崎)
授業外学修 予習(事前学修)	各授業 [100分]	ニュース等で関心を持った話題があれば目を通しておくこと。また自らの生活の中で自分の価値観や物のとらえ方の傾向について意識すること。事前・事後学修として各回の講義評価、感想等をピックアップした動画を作成する予定なので視聴すること。
授業外学修 復習(事後学修)	各授業 [100分]	授業で提示された参考文献や関連資料については目を通しておくこと。事前・事後学修として各回の講義評価、感想等をピックアップした動画を作成する予定なので視聴すること。
評価方法	平常点30%、小課題50%、レポート20% 小課題については授業内のresponや授業終了後のアンケートの回答、事前・事後学修動画の視聴状況で評価を行う。メディア授業については配信当日中に受講すること。但し、実習や体調不良等でやむを得ず受講できなかった場合には、体調や状況回復後にmanabaに掲載されているオンデマンド動画を視聴し、responや授業終了後のアンケートに回答すること。対面授業の欠席分についても同様とする。欠席の場合は個別指導コレクションより「欠席理由を明記し、欠席分についてはコースコンテンツの動画を視聴し、レスポンスに回答します」と連絡ください。「欠席するので課題を教えてください」等の連絡には返信しないので注意すること。	
教科書等	教科書は使用せず、資料を配布するとともに参考文献に関しては授業にて適宜紹介をする。	
課題に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックの方法としては、授業内に説明や翌週にmanabaに解答を掲載したり、必要に応じて解説・講評を行う。また各回の講義評価、感想等をピックアップした事前・事後学修教材動画を配信する。	
その他	実習等でやむを得ず欠席する場合は、manabaにオンデマンド動画を掲載するので必ず視聴し、responや授業終了後のアンケートに回答すること。オンデマンド教材を視聴する際には必ず家政大のアカウントで受講すること。家政大アカウントでないと視聴履歴がつかず出席にカウントされません。家政大のアカウント以外で視聴のアクセスや共有のリクエストには応じないので注意すること。対面授業時にはresponを用いて質問を交えながら進めるので、スマホ等の端末を充電の上持参して参加すること。	
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
「授業担当者の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	①社会福祉士、介護支援専門員 ②市町村社会福祉協議会のコミュニティワーカーとしての地域住民との協働活動の推進や介護保険制度における要介護認定の訪問調査などを経験し、社会福祉士や児童指導員の養成に携わってきた経験を活かし、共生社会の実現に向けた具体的な支援手法を交えて授業を行う。	
ファイル		